平成29年度名誉総裁表彰式典

おことばを述べられる 名誉総裁 高円宮妃久子殿下

海難救助及び洋上救急に功績のあった1団体・１個人が表彰されました。

平成29年６月５日、東京都千代田区平河町の海運ビル（２階ホール）において、本会名誉総裁である高円宮妃久子殿下ご台臨のもと、来賓として大野泰正国土交通大臣政務官及び中島敏海上保安庁長官をお招きし、「平成29年度名誉総裁表彰式典」を盛大かつ厳かに執り行いました。

表彰式典では、名誉総裁表彰を受章された１団体及び１個人に対して、名誉総裁高円宮妃久子殿下から直接、表彰状とともに団体には名誉総裁盾、個人には名誉総裁章がそれぞれ授与されました。

式典会場に御入場される高円宮妃久子殿下

名誉総裁表彰式典の様子

挨拶を行う名誉総裁表彰審査委員会委員長（相原会長）

ご来賓の大野泰正国土交通大臣政務官（左）、中島敏海上保安庁長官（右）

■ 平成29年度名誉総裁表彰受章者

◇海難救助功労（団体）

伊豆地区水難救済会　下田救難所

平成28年８月21日午前７時33分頃、「下田市須崎の爪木埼灯台付近の磯場で釣人３名が海中転落し、救助を求めている。」との118番通報を受けた下田海上保安部は、直ちに下田救難所に対し救助出動の要請を行った。

要請を受けた同救難所の救助員６名は、直ちに救助船「すさき丸」に乗船し、台風９号の影響により磯波が高い中、多数の岩礁が存在し、複雑な沿岸流のある海域において、捜索を開始して間もなく、救命胴衣を未着用で漂流中の３名を発見した。

しかし、接近するのは磯波が高く極めて危険と判断し、３名に対し沖合に向かうよう指示し、巧みな操船により救助員が一致協力してロープを投げ入れ、午前８時頃までに３名を船内に引き上げ救助した。

また、そのうちの１名が意識を失って心肺停止状態になったため、その異変に気づいた救助員の一人が直ちに心肺蘇生措置を開始して須崎漁港まで継続し、救助した他の２名と共に消防の救急隊に引き継いだ。

名誉総裁から表彰状及び名誉総裁盾を授与される伊豆地区水難救済会下田救難所 救難所長　加藤紀久夫氏

受章した下田救難所長加藤紀久夫氏（左）及び伊豆地区水難救済会事務局長横山昭二氏（右）

海難救助が行われた下田市須崎の爪木埼灯台下磯場

海難救助に出動した救助船の漁船すさき丸（総トン数6.6トン）

◇洋上救急功労（個人）

紙尾　均　氏

（沖縄県立八重山病院救急科部長/医師）

洋上救急事業の協力医療機関の医師として、平成19年６月の初出動以来巡視船艇や航空機に同乗して平成28年９月までに累計12件の洋上救急事案に出動し、14名の傷病者に対して救急医療処置を行ったほか、本会が実施している慣熟訓練にも率先して指導的役割を担う等、本会の洋上救急事業に貢献した。

名誉総裁から表彰状（上）及び名誉総裁章（下）を授与される紙尾　均氏

海難救助功労で名誉総裁表彰を受章した伊豆地区水難救済会下田救難所救難所長と同海難救助に出動した救助員の皆様及び洋上救急功労で名誉総裁表彰を受章した紙尾均 氏（右から2人目）

名誉総裁高円宮妃久子殿下から授与された表彰状と名誉総裁盾及び名誉総裁章

海難救助功労（団体）

洋上救急功労（個人）

ご来賓の大野泰正国土交通大臣政務官からご祝辞をいただきました。

下田救難所長　加藤紀久夫氏から謝辞が述べられました。

懇親会にて挨拶を行う相原会長

懇親会冒頭に受章者等の紹介が行われました。（左から沖縄県立八重山病院紙尾均氏、下田救難所救助員の土屋洋人氏、土屋光永氏、田中千春氏、田中敏夫氏、田中長男氏、救難所長加藤紀久夫氏）

懇親会の開催にあたり中島敏海上保安庁長官からご挨拶をいただきました。

懇親会にて中締めを行う名誉総裁表彰審査委員会委員で日本水難救済会理事の大山高明氏